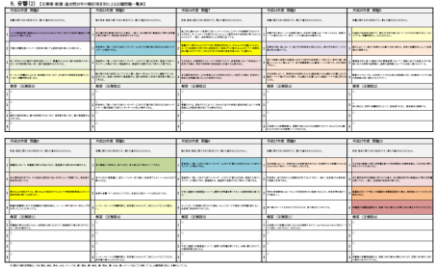

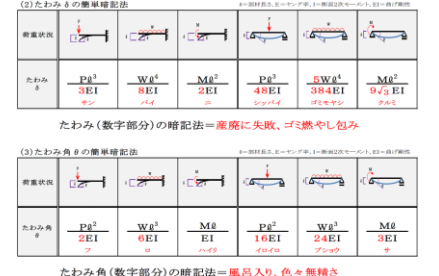
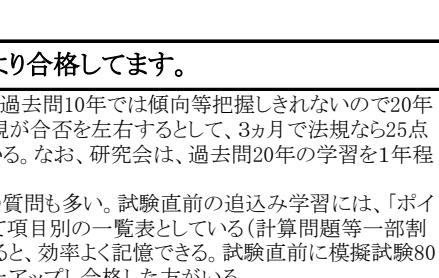




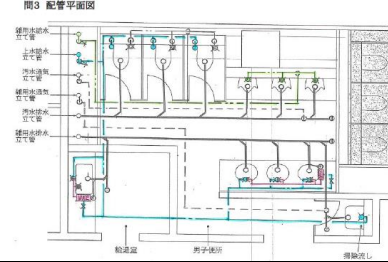
Q&A (2020年版)

・今まで頂いた質問の中から代表的なものを「Q&A」として取りまとめました。

1. 1級建築士のQ&A

Q1	1級学科 : 一般書籍と何が違うのですか？	
A1	1級学科 : 過去問20年が簡単に効率よく学習できる資料です。	
補足	<p>HPの最大の特徴は、過去問20年分が一覧表にまとまっており、その20年間の過去問を効率よく学習することができる。一般書籍は、「過去問7年問題集」や「分野別問題」など1問ずつが詳細に解説されている。これを否定するものではなく、HPは、如何に時間をかけないで効率よく過去問を学習できるかを追求した資料である。毎年1問出題される項目の場合、過去問(20年分)がA3件2枚の一覧表(類似問題色分)で全てが見れるので、机にこの2枚を置くと、20年分の問題傾向を簡単に把握できる(右表参照)。多くの会員の方が、この一覧表等を活用して3ヵ月程度の短期間の学習で合格をしている。</p>	
Q2	1級学科 : 法規は最新法令集に適合していますか？	
A2	1級学科 : 過去問20年は2020年版法令集の法文に適合しています。	
補足	<p>法文(法令集)は、毎年若干の変更がある。従来、実行委員(5名)では、この毎年の変更に対して、十分な対応ができなかった。その都度、会員から指摘を頂き、その部分を変更修正する状況であった。2020年、会員費用が多少残り、外注依頼することで「過去問20年分」の項目別一覧表(右参照)の現法(2020年法令集対応)への全面見直しを実施した。なお、外注依頼が企業ではなく個人であることから、全てが完璧とは言えない部分もあるので、お気づきの点は従来通りメール連絡頂くと、その都度、修正を加える。</p>	
Q3	1級学科 : 構造力学が不得意ですが、どのように学習すれば良いのですか？	 <p>(2) たわみ(数字部分)の暗記法 たわみ(数字部分)の暗記法=産廃に失敗、ゴミ燃やし込み</p> <p>(3) たわみ角(数字部分)の暗記法 たわみ角(数字部分)の暗記法=風呂入り、色々無精さ</p>
A3	1級学科 : 過去問以外の「7章重要解説」や「9章用語解説」等も学習して下さい。	
補足	<p>構造力学は、構造設計者でない場合、過去問の学習だけでは簡単に解答ができない。特にHPは、解説内容が少ないので、項目別一覧表だけの学習は難しい。そこで、HP内には、「7章 項目別の重要解説」や「9章 用語解説」等の資料があるので活用頂きたい。一例として右表は、「9章 用語解説」の中の「4-2-3 たわみとたわみ角の公式の簡単暗記法」である。ゴロ合わせて簡単に公式が暗記できるものであり、ここを暗記すると、このたわみとたわみ角の問題は、高確率で簡単に解答できる。なお、研究会は、構造力学の約7問に対して、静定構造(リッター切断法)、たわみ、崩壊荷重、座屈、振動等の約半分の解答を推奨している(7問全問解答は膨大な時間を要する)。</p>	
Q4	1級学科 : 短期間で本当に合格できますか？	
A4	1級学科 : 多くの方が3ヵ月の短期学習で、試験1週間前の入会でも+10点アップにより合格しています。	
補足	<p>3ヵ月合格法: 学科試験は、過去問20年を学習すると、この学習だけで100点超えをすることが可能である(過去問10年では傾向等把握しきれないので20年必要)。HPは、如何に効率よく過去問20年を学習できる資料(を項目別一覧表等)としている。また、法規が合否を左右するとして、3ヵ月で法規なら25点取得できる資料も提供している。その結果、多くの会員の方が、HPだけによる3ヵ月の短期間で合格している。なお、研究会は、過去問20年の学習を1年程度かけて確実に100点超えで合格することを推奨している。</p> <p>1週間合格法: 試験直前の模擬試験結果が80点代であり、ここからの追込み学習にHP活用は有効か等の質問も多い。試験直前の追込み学習には、「ポイント一覧表」が有効である。このポイント一覧表は、HP開始時H7~R1全ての選択肢問題を正解文に変えて項目別の一覧表としている(計算問題等一部割愛あり)。人間は、正解文と間違文と一緒に学習すると、混乱して記憶し難い。ここを正解文のみで学習すると、効率よく記憶できる。試験直前に模擬試験80点代の方が入会し、試験前1週間会社を休み、このポイント一覧表だけを学習して、模擬試験から10点以上アップし合格した方がいる。</p>	
Q5	1級製図 : 毎年なぜ予測3課題のみで約8割以上も的中するのですか？	
A5	1級製図 : S社・N社を含めた多くの分析により4年連続で8割的中しています。	
補足	<p>HPの予測課題は3案であるが、S社・N社も含め多くの資料を分析することで、4年連続8割以上の中している。3案絞込みの理由は、S社・N社(予測課題10~15案)では全ての課題学習に膨大な時間を要し「結局何が出来る?」となることと、3案集中型の方が十分な理解が深まり本試験で応用が可能となるとの判断である。また、8割以上の中していることは、多くの資料を分析して予測課題を作成することによる(S社・N社全ての予測課題も分析、右表参照)。S社とN社でも予測課題で大きく異なる傾向もみられる。2018年(H30)の予測課題では、S社は何故か多くの課題でB1ありの予測課題であった(N社は全てB1無し、研究会は1案のみB1あり、試験ではB1無しだった)。</p>	
Q6	1級学科・製図 : 資格学校へ通学しなくても合格できますか？	
A6	1級学科・製図 : HPのみ利用で学科(多数)、製図(少数)を合格しています。	
補足	<p>第一に1級建築士の合格者の9割弱がS社・N社の受講者が占めることから、資格学校への通学を否定するものではない(対面学習等の利点もある)。ただし、あまりに高額な受講費であり、特にS社は近年入学後に追加補修をする経営方針へ転換している(学科も製図も様々な追加補修があり入学金+補修費10~20万円必要、断り難い一面あり、N社は特に追加補修費はない)。その結果、約100万円/年の費用が発生する。それでも1年間で合格できれば良いが、実際は、2年3年となりローンを組んで受講する方も多い。6年前の受講者へのアンケート調査でも、この点は多くの方から指摘され、費用のかからない(最低でも1ヶ月程度のお小遣い)で合格できるHPの開設依頼が多々あった。学科は、HPの過去問20年の各種一覧表で確実に合格できる(多くの会員が合格している)。製図は、8割以上の中する予測3課題、添削、個人質疑対応等により合格できる(若干の会員が合格している)。</p>	

2. その他(2級・設備1級・構造1級・HP関連等)のQ&A

Q1	2級学科: 一般書籍と何が違うのですか？	
A1	2級学科: 過去問13年が簡単に効率よく学習できる資料です。	
補足	HPの最大の特徴は、過去問13年分が一覧表にまとまっており、その13年間の過去問を効率よく学習することができる。一般書籍は、「過去問7年問題集」や「分野別問題」など1問ずつが詳細に解説されている。これを否定するものではなく、HPは、如何に時間をかけないで効率よく過去問を学習できるかを追求した資料である。その一例を右に示す。A3伴1枚に過去問10年分をまとめており、1項目の過去問(13年分)なら、A3伴2枚等の一覧表で全てが見れる。類似問題は色分けしているの、机にこの2枚を置くと、13年分の問題傾向を簡単に把握できる。	
Q2	2級学科: 2級の学科講座は、1級の講座と異なり過去問20年ではないですが合格できますか？	
A2	2級学科: 2級は1級より合格率が高いので、現状過去問(13年分)で合格可能と判断します。	
補足	2級の学科合格率は約4割であり、1級の学科合格率の約2割と比較すると、2倍の合格率である。この合格率であれば、過去問10年程度の学習でも合格できると判断する(過去3年間の平均合格率: 2級学科38.8%、1級学科19.8%)。 ・2017年(H29)合格率: 2級学科36.6%、1級学科18.4% ・2017年(H29)合格率: 2級学科37.7%、1級学科18.3% ・2017年(H29)合格率: 2級学科42.0%、1級学科22.8%	
Q3	2級製図: 製図予測課題は1種類のみですが、これで合格できますか？	
A3	2級製図: 1つの予測課題で7割以上中しているの、合格可能と判断します。	
補足	2級製図の合格率は、52%~54%である。HPの予測課題は1種類のみであるが、H29・H30は約8割以上の中、R1は約7割以上の中(右表参照)である。2級の合格率とHP的中率から、HPの1つの予測課題でも合格できると判断する。不安に思う方は、市販のS社・N社の2級製図書籍(毎年課題への傾向予測課題あり)を購入頂き、併用利用を推薦する。なお、HP予測課題はS社・N社の書籍も分析しているので、この2社を分析まとめる時間が無い方は、HP予測課題のみを学習して下さい。	
Q4	設備1級: 設備1級は、HPの過去問(H21~H30)で合格できますか？	
A4	設備1級: 出題がパターン化されているので、合格可能と判断します。	
補足	法適合は、空調・給排水・電気・輸送について各5問が出題される。この問題は、類似パターン化されており、試験ではテキスト持込み可なので、H21~H30の過去問学習でR1以降も合格可能と判断する。なお、建築設備士を保有する方は、法適合のみの試験となるが、その条件でも過去問を学習しないと合格し難い(解答が筆記形式であり時間が足りなく、過去問を学習しないと合格は難しい)。選択問題は、給排水衛生設備のみの解説である。給排水は、計算式及び図面共に毎年パターン化しており、意匠設計者(受験資格有)の方でも合格できるようにまとめている(図面は手書きで綺麗ではない、右図参照)。	
Q5	設備1級: R1以降は更新されないのですか？	
A5	設備1級: 現段階では対応可能な方が見つからず、R1以降は更新できない状況です。	
補足	実行委員5名の中で、設備1級を保有する者が1名のみであり、高齢と多忙から資料作成および質疑対応ができない状況となり、講座を停止しました。代わりの方を探したのですが、HP資料作りが基本無料であり、協力頂ける方を探すことができませんでした。今後、無料で設備1級の資料作成及び質疑に対応頂ける方が見つかりましたら再開する。なお、R1以降の試験でも、H21~H30までの過去問を学習すると傾向が分かるので合格できると判断している。資格学校への通学では約30~40万円、また過去問5年の解答書販売(ネット販売)では約10万円といずれも高額であることから、HP2万円の活用が最も安価である。	
Q6	構造1級: H30以降はJSCA解説本を推奨にて講座停止とありますが、この学習で合格できますか？	
A6	構造1級: JSCA解説本は過去問5年間分の詳細な解説があり、この学習だけで合格可能と判断します。	
補足	当初、研究会の調査では、構造1級に関する市販の書籍を見つけることができなかった。また資格学校の講座は、30~40万円等と高いこと、実行委員1名(構造1級の保有者)が資料作成し、講座として公開しました。2018年に入り、実行委員から「一般社団法人 日本建築構造技術者協会(以降、JSCAという)」から構造設計1級建築士の解答書(過去問5年の解説で4千円)が販売されているとの情報があり、資料を分析した結果、JSCA資料を推奨することで講座を停止しました。JSCA解説本は、過去問5年間の詳細な解説であり、この学習で合格できると判断している。なお、JSCA解答本は過去問5年間分なので、HP(H21~H29)を継続公開することとした。	
Q7	HP関連: 会費は2万円で全て見れますか？	
A7	HP関連: 会員講座は2万円/年で全ての講座が見れます。	
補足	講座は、ここ「無料講座HOME」のほか、会員講座には「①1級建築士(学科講座)」、「②1級建築士(製図講座)」、「③2級建築士講座」、「④設備設計1級建築士講座(H21~H30)」、「⑤構造設計1級建築士講座(H21~H29)」があり、年会費2万円で①~⑤の全てが見れます。なお、1年後の1年間延長では、年会費1万円となります。HPは、利益を追求していません(企業ではありません)。資料は、研究会の実行委員5名により無償作成(打合時の食費負担等)であり、会費は全てHP維持費に充てています。従って、年会費2万円という格安で維持できています。なお、会費がある程度貯まった場合、外注依頼による「音声解説の講座」を開始します。	
Q8	その他: 資格学校S社とN社の違いなど教えて頂けないですか？	
A8	その他: 2020年5月現在の分かる範囲で記載します(S社・N社)。	
補足	学科: S社・N社の講義は、講師が資料に基づき解説する(ビデオ講座含む、資料は両社共に同様な内容)。この講義は、5科目全てを数か月に渡り、週1回で満遍なく解説する(全国共通、両社同じ)。対面講義で疑問を聴けるメリットあり(ただし短時間)。 製図: S社・N社の講義は、毎週異なる予測課題を1日かけて作図し添削指導となる(両社共に10~15案程度の予測課題あり)。多くの予測課題があるので、どれかは本試験課題と類似する(ただし全内容の把握では膨大な学習時間を要する)。 その他: 最終合格者の8割強はS社・N社の受講生(合格率は両社共に約5割、占有率はS社が約7割)。なお、S社は近年、学科&製図共に様々な追加有料講座があり、入学時支払金のほか約10~20万円の追加費用が必要(拒否し難い状況あり)。	